

**NO.1** ロコモティブシンドロームの概念と保健指導に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 運動器の障害による移動機能の低下した状態を指し、そのリスクの低減のために、18歳から64歳には、3メッツ以上の強度の身体活動を毎日60分、また、「今よりプラス10分、身体を動かすこと」を心掛けるよう指導する。
2. 運動器や神経系の障害のため要介護1以上が認定された状態を指し、該当者には介護保険で機能訓練を受けることを勧める。
3. 呼吸器の障害による運動能力の低下した状態を指し、「緩やかな上り坂を歩くときに息切れがある」、「平坦な道を100m歩くと息切れのために立ち止まる」などのチェック項目からなる修正MRC (mMRC) 質問票によってリスクの程度を確認するよう指導する。
4. メタボリックシンドローム、がんなどの生活習慣病全般を指す新しい疾患概念であり、罹患リスクのある18歳から64歳には週に23メッツの身体活動を勧める。
5. 過食が原因で発生する脂質異常の状態を指す新しい疾患概念であり、身体活動レベル I の40歳の女性には1800 kcal/日のエネルギー摂取を勧める。

正答番号 1

(専門試験 保健師)

**NO.2** 図は、120人を対象としたある疾患についてのスクリーニング検査の結果と確定診断の結果を示したものである。これに関する次の記述のうち妥当なのはどれか。なお、割り切れない場合には、小数第1位を四捨五入して値を求めるものとする。

(単位：人)

		確定診断		計
		疾患あり	疾患なし	
スクリーニング検査	陽性	20	2	22
	陰性	4	94	98
計		24	96	120

1. 感度は98%である。
2. 特異度は83%である。
3. 陽性反応適中度は2%である。
4. 偽陰性率は17%である。
5. 偽陽性率は91%である。

正答番号 4

**NO.3** 平成26年に成立した「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」により介護保険制度が改正された。この改正に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 要介護度から要支援1と要支援2がなくなり、従来の要支援者は全て介護予防・生活支援サービス事業対象者となった。
2. 特別養護老人ホームへの新規入居者は、原則として、要介護度3以上の者に限定された。
3. 介護サービス利用者の自己負担割合が、生活保護を受けている者を除き、2割となった。
4. 介護老人福祉施設等の利用者の食費・部屋代については、全ての利用者が全額負担することとなった。
5. 介護サービスを利用する場合に払う利用者負担に設定されていた月々の負担の上限が撤廃された。

正答番号 2